

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 135	提案機関名 神奈川県内水面養殖業者協議会
要望問題 人工産アユの成熟時期の調整	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 アユは本県の内水面漁業において、釣り対象及び養殖対象として最重要魚種となっています。現在、内水面種苗生産施設で生産しているアユ種苗は、河川放流用としてばかりでなく、魚類防疫や種苗の安定的な供給の面で、アユ養殖業にとっても重要な役割を担っております。 しかし、人工産アユは海産種苗に比べ成熟の進行が早いため、活魚で出荷する場合に販売期間が限られています。成熟を遅らせるためには、成熟時期の遅い海産種苗由来の親魚から採卵することや人為的に親魚の成熟時期を遅くすることが考えられますので、これらの研究を要望します。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	内水面試験場
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) アユ資源管理研究		
対応の内容等	人工産アユは、成熟時期が早かった長期継代アユの生産を平成23年に終了し、平成24年からは、長期継代アユに比べて成熟時期が遅い短期継代アユに切り換えて種苗生産を行っています。 現在は、より継代数の少ないアユ親魚の使用を目指すとともに、電照飼育などの成熟調整技術の改良に取り組んでおります。今後、成熟調整技術の一層の改良に努めてまいります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			